

ビオトープ・イタンキ通信 第14号

NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭 2023年5月1日

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭では「ホテル再び、人にやさしい街・室蘭」を合い言葉にビオトープ作りを進めています。原始のままの海岸線、鳴り砂の浜に続く草原の一角に、今は失われてしまった湿地を復元し、子供たちが生き物と触れ合える場の再生を目指しています。

【ヘイケボタル飼育記】

8月の頭、ビオトープでのホテル観察期間の終わり頃、2匹のホテルをお迎えました。ちょうど交尾中のオス・メスがいたので、プラカップに水苔を入れて、そこに数日いてもらいましたところ、焼きタラコの粒みたいな卵が産まれておりました。親ホテルをビオトープにお返しして、ホテルの幼虫飼育が始まりました。

2週間くらい経った頃、卵が孵化して幼虫が産まれました。小さくて透き通っていて、よく見ないとわかりません。ある程度成長して真っ黒な姿は図鑑などで見たことがあったのですが、最初は透明なのですね。

産まれた後は、ひたすらエサを与えながら水交換をしています。エサはカワニナやモノアラガイなど、川の貝を潰して与えます。川の貝以外ではアサリやシジミも美味しいみたいです。意外ですね。でもお店で買えるので、用意が楽です。食べ終わった後は食べ残しを取ったりして、水の綺麗さを維持するようになりますが、これが意外と気を使います。水が汚れたり、エアが切れたりしてもあっさり弱ります。けれども生命力自体は強いようで、弱っても水を綺麗なものに替えると復活しました。

2度ほどのピンチを乗り切って、60匹くらいの幼虫が成長しました。11月初頭に30匹ほどをビオトープに放流して、4月現在、手元には30匹ほどの幼虫がいます。1.5~2.0cmくらいの4~5令幼虫です。夏には綺麗に舞ってもらえるよう、これからも頑張ってお世話しようと思います！



ヘイケボタル

【カキツバタとノハナショウブ】

近郊の湿地より導入したカキツバタが、ここ数年G池周辺で美しい花を咲かせています。今年も6月上旬には満開時期を迎えると思います。またイタンキの斜面には同じくアヤメ科のノハナショウブが7月頃に開花します。

これらのアヤメ科の花の見分け方を書いておきます。アヤメは外花びらに網目状の模様があり比較的乾燥した土地に咲きます。ノハナショウブは花びらが赤紫色で外花びらの元に黄色い線状の模様が入り湿った土地に咲きます。カキツバタは花びらの色が青紫色で外花びらの元に白い線状の模様が入り水辺に咲いています。このように花びらの色や模様、咲いている場所で区別できます。(磯田広史)



カキツバタの群生



アヤメ



ノハナショウブ



カキツバタ